

フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州、日本とヨーロッパを繋ぐ戦略的な架け橋

戦略的な立地、優れた物流インフラ、高度に専門化された人材、そして堅固な産業エコシステム——これらが、外国企業を惹きつけ、特に日本企業から、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州（FVG）が魅力的なビジネスパートナーに選ばれる要因です。事実、同州は日本への食品・飲料品の純輸出地となっており、他の主要分野でも貿易黒字を記録しています：2024 年上半期のデータによれば、木材・家具分野の輸出は 480 万ユーロ、製造業分野では 340 万ユーロの黒字となっており、さらに電子機器の製造など、地域の強みを生かした分野でも実績を挙げています。一方で、日本もまた、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州にとって、自動車産業や繊維製品などの複数の分野における重要な輸入パートナーです。このような双方向の交流を通じたグローバルな連携が経済競争力の鍵となる現在、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州は、イタリア国内で最も魅力的な外国直接投資地域の一つとして、とりわけ、日本からの投資先として存在感を強めています。

海と鉄道が交差する国際的ハブ

フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州（FVG）は、地中海と中央ヨーロッパおよび東欧市場を結ぶ欧州の中心に位置する、戦略的なポジションにあります。この視点から、トリエステ港は重要な役割を果たし、地域の主要な資産の一つです。インフラの鍵、輸出入の動脈であるトリエステ港は、ヨーロッパで唯一の自由港制度を採用し、特別な税制・関税の優遇措置を整備しています。天然の水深がもたらしたイタリア最大の貨物取扱港であり、鉄道貨物輸送量においては、イタリア第 1 位を誇り、スエズ運河経由でアジアを結ぶ欧州有数の港湾の一つです。日本の貨物にとって、トリエステ港は、ヨーロッパ市場への理想的な玄関口となり得ます。港に到着した貨物は、効率的な鉄道ネットワークによって中央ヨーロッパ各国へと運ばれます：鉄道での貨物取扱量は年間 360 万トン以上にのぼり、主な仕向け地はドイツ（30%）、オーストリア（23%）、イタリア国内（18%）のほか、ルクセンブルク、ベルギー、ハンガリー、チェコ、ポーランドなど多数に及びます。フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州は、5 つのインターモーダル輸送と高度に整備された物流ネットワークを有し、日本とヨーロッパをつなぐ戦略的な架け橋です：東京に次いで、日本第 2 の経済圏である関西（特に大阪）は、バイオテクノロジー、ロジスティクス、航空宇宙産業、先端製造分野において、フリウリ州が認める重要な戦略的地域の代表格です。

「ビジネス・フレンドリー」州

FVG は、物流の強みに加え、外国企業にとって魅力ある有利な経済条件を数多く備えています：たとえば、地方税の IRAP（生産活動に対する課税）は設立から最初の 3 年間はゼロ％（その後 2 年間は 1％）と設定されており、低利の優遇融資や研究開発プロジェクトへの無償助成金も用意され、さらに、人材採用のための無料サービス、インセンティブに関するコンサルティング、ネットワーキングイベントの支援をしています。また、州は、企業の資本強化や成長のための戦略的資金調達手段へのアクセスを支援する専門の金融機関を所有しています。最近では、簡素化物流ゾーン（Zona Logistica Semplificata）も設置され、企業は簡素化された行政手続きに加え、投資に対する税額控除や優遇された通関回廊を利用できるようになっています。

イノベーションと人的資本

フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州の魅力は、世界的に著名な科学研究機関が集積している点にもあります。例えば、トリエステ大学、国際高等先端研究大学院（SISSA）、理論物理学国際センター（ICTP）、国立研究所 Area Science Park などです。物理学、人工知能、医療、新素材といった先端分野における日伊共同研究を目指す日本のハイテク企業が関心を寄せています。また、先端製造業にも日本の関心は及んでいます：（ウーディネ県にある）ブットリオに本社を構える産業工学大手のダニエリ社（Danieli）は、長年にわたり日本企業と鉄鋼分野で協業しています。

「セレクトイング・イタリー」：日本市場への扉

こうした企業間・文化間の相互交流の一つとして、2025 年大阪万博の枠組みの中で、去る 4 月 25 日に「Selecting Italy（セレクトイング・イタリー）」というイベントが大阪で開催されました。

本イベントは、外国投資の誘致を目的としたもので、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア特別自治州とイタリア州会議が共同主催し、イタリア外務・国際協力省および「企業とメイド・イン・イタリー」省が後援しました。日本市場に焦点を当てた本会議に、行政機関や企業関係者ら 130 名を超えるステークホルダーが一堂に会しました。フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州のマッシミリアーノ・フェドリーガ

州知事は次のように述べました：「我々の州は、相互投資の新たな機会を生み出すために、不安定な国際情勢の中で、インド・地中海回廊を強化することが重要であり、日本との絆を強化することが不可欠であると確信しています。この回廊は、日本から出発し、トリエステ港を経由してイタリアとヨーロッパへとつながる国際物流の要となります。」また州知事は、これまでに日本およびフリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州の間で行われてきた連携の取り組みについても触れました：「この数か月で、両地域を結ぶ具体的な取り組みが数多く始まりました。2024 年 11 月には、日本への最初の公式訪問を実施し、今年 4 月の大阪万博における外国直接投資を誘致する特別イベント「Selecting Italy」を開催しました。さらに、2025 年 1 月には日本および外国間の投資・交流を促進する日本貿易振興機構（JETRO）代表団を FVG に迎えました。これらのイベントを一過性のものにせず、長期的な連携プログラムへの第一歩とすることが、我々の目標です。」フェドリーガ州知事は最後にこう結びました。

Nidec : FVG と日本の模範的な連携事例

FVG 州と日本の成功例の一つが、電動モーターおよび関連部品の製造で知られる日本企業ニデック（Nidec）です。同社は 2010 年、ポルデノーネの小規模企業を買収し、その成長と発展を後押ししました。「この買収は、当時の FVG 地域に存在していた製品の専門性と高い工業開発水準に基づくものでした」と語るのは、ニデックの戦略的事業部門「Nidec Appliance, Commercial and Industrial Motors (ACIM)」の CEO、カティア・ドルシアン氏です。ACIM は世界で約 1 万 8 千人の従業員を擁し、Appliance Automotive Division (AAD) は 3 万人以上、CEO はヴァルテル・タランツァーノ氏です。ニデックは、ACIM と AAD の両本社を FVG に置くことを決定しました。現在、この本社は、先進的な生産施設と研究開発センターを備えた全グループのグローバル拠点となっています。実際、イタリア国外にも展開する AAD 全体の売上は、ここ数年で、1 億 3 千万ドルから 50 億ドル超へと成長しました。FVG と日本を結ぶ重要な要素は、「堅固な産業基盤と仕事への情熱です。日本では、こうした特性にモチベーションと責任感が加わって、文化の重要な要素となりますが、イタリア北東部でも同様に、この特性が見られます」とドルシアン氏は述べています。さらに、物流と税制面での優位性について、「当初、買収時は、それほど重視されていませんでしたが、後からそれが大きなメリットとして認識されたとし、港湾の存在が物流面で大きな強みであること、そして FVG が欧州全体との文化的接点を持つ開かれた地域であることが、優秀な人材を引きつけ、国内では稀にみる柔軟で国際的なマインドの育成に貢献していることに早い段階で気づきました」と続

けました。イタリアの創造性と革新力に、日本の厳格さと勤勉さを組み合わせることとで、「我々は二つの異なる文化的ビジョンの中に本質的に高い親和性があることを基本として、互いを補完し合いながら、グローバル市場において競争力のある日伊連携モデルを築くことができました。これは、ニデックの経済的・財務的な安定性と、イタリアならではの柔軟で革新的な起業家精神が融合した結果です」とも強調しています。ドルシアン氏は、大阪万博の「Selecting Italy」特別イベントにも登壇し、フェドリーガ州知事およびそのスタッフと会談した上で、さらに州の行政機関との関係性について深く議論しました。「私たちは、問題意識を共有し、耳を傾けてくれるオープンなチームと出会いました。企業がFVGで直面する課題に対して互いに理解し協力し合える強い意欲を感じました。新製品の開発支援や、ポルデノーネ本社の国際的な拠点としての役割をさらに強化するため、より具体的で実践的な連携を目指していきたいです。」と語りました。そして最後に、州と日本企業の協力関係の意義は、「FVGが、産業志向の発展に前向きな地域として示すだけでなく、暮らしやすく働きやすい魅力的な土地として発信できることであり、さらに多くの優秀な人材を呼び込むことができると信じています」とトップマネージャーは締めくくりました。